

令和5年度 支援学校 仙台みらい高等学園 第二回 学校評議員会

- 日 時 令和6年2月19日(月) 午後2時30分～午後3時30分
- 参加者【本校】 檜村、藤原、菅野、会津、栗原、下村、中野、久田、大堀、鈴木  
【評議員】以下参照  
【オブザーバー】飛鳥未来中等部・初等部 仙台教室 高清水キャンパス長
- 会 場 支援学校 仙台みらい高等学園 寄宿舎食堂
- 内 容

1 学校長挨拶(檜村)

開校3年目を過ぎ、評議員皆様の助言をいただきながら、様々な引き出しを増やすことができました。

本日もいただいたご助言を受け止めさせていただき、今後のより良い学校運営に活かしていきたいと思っております。引き続きご指導をお願いいたします。

2 評議委員紹介

- ・宮城教育大学大学院 教育学研究科高度教職実践専攻 教授 水谷 好成 様
- ・全国農業協同組合連合会 耕種総合対策部 次長 岩田 和彦 様
- ・社会福祉法人共生福祉会 萩の郷福祉工場 福祉部部長 高橋 康弘 様(欠席)
- ・仙台市青葉区荒巻町内会 菊地 希壽 様
- ・株式会社ガモウ 広域エリア営業部 東北エリア統括 井上 英治 様(欠席)

3 分掌年度反省報告

教務部(久田)

- ・活動方針、活動目目標、達成率 ※資料参照

【課題と次年度に向けての改善策】

(教務)

- ・適切な学校運営書類の運用(出席簿・授業計画・個別の指導計画・公務日誌等)  
改善:作成見本等の見直し。確認体制の設定。確認者の決定。
- ・計画かつ適切なタイミングの発信。  
改善:年度初めに発信タイミング設定する。

(保健)

- ・保健便り等を用いて健康診断の所見者や未検者の受診を積極的に促す。
- ・保健指導等保健行事を行う際は、事前の準備を入念に行う。
- ・保健室の有り方を改めて検討する。

#### 生徒指導部（下村）

- ・活動方針、活動目標、達成率 ※資料参照

##### 【課題と次年度に向けての改善策】

（部活動地域移行）

- ・次年度は完全移行とする。地域のスポーツクラブ等と連携し生徒のワークライフバランスを実現していく。また、大会等は学校所属で出場となるため、その手続きや事前練習などはバランスを考え実施していく。

（生徒会を中心としての主体活動）

- ・生徒主体的な活動を促しつつ、P D C Aサイクルを意識した指導を徹底していきたい。また今年発足した図書委員会の活動を軌道に乗せ、必要に応じて委員会の増設を検討し、生徒の活躍する機会を増やしていきたい。

（問題行動発生時の対応）

- ・問題行動による生徒指導事案の対応については、該当生徒の障害などを踏まえた対応とその判断が課題となる。来年度も生徒の障害特性や状況などを踏まえ、責任者への報告連絡相談を密に行い、担任や学年と連携して実施していきたい。

#### 進路指導部（中野）

- ・活動方針、活動目標、達成率 ※資料参照

##### 【課題と次年度に向けての改善策】

（課題）

- ① プロトレ、プレトレ、デュアル実習の目的・目標・課題感の教員統一化。
- ② 定着支援と連動した移行支援会議の運営方法。在学中の外部機関との関係構築が薄い。

（改善策）

- ① 実施する実習、生徒それぞれの目的・目標・課題感を担任以外でも把握でき、可視化できる仕組みを構築する。
- ② 「定着支援は学校から外部機関に繋ぐ」ことを前提とし、外部との連携を盛り込んだ移行支援実施計画を作成する。

#### 地域支援部（中野）

- ・活動方針、活動目標、達成率 ※資料参照

##### 【課題と次年度に向けての改善策】

- ① 教職員と心理師、月2回以上、対面での行動観察FBを実施する。

（改善策）

知的障害・発達障害をもつ生徒の個別支援の重要性を教職員が認識し心理師の行動観察FBの需要を高めることで全教職員に行動観察FBをできるようにする。そのため、には内部研修を増やしていく必要がある。

② 年2回以上、寄宿舍及び希望者は地域交流の場へ参加する。

(改善策)

人数制限のない地域交流イベントを地域支援部で企画、運営する。そのためには生徒の要望を聞き取ることから始める。

③ 年間を通し、抽出生徒2人のケース会議を行う。

④ 教職員の内外部研修を実施する。

⑤ アセスメントを基にしたケース検討、研究授業を実施する。

防災環境整備部（栗原）

・活動方針、活動目標、達成率 ※資料参照

【課題と次年度に向けての改善策】

(課題)

① 校舎内外にクラックが目立つ、校舎等の窓の開閉がしづらい箇所がある。

② 避難訓練などを更に生徒が理解しやすい内容へ強化していく。

(改善策)

① 取引先様と連携を図り、破損個所の早期対応を検討していく。

② 消防署等外部の協力を得て訓練を行う。

事務部（久田）

・活動方針、活動目標、達成率 ※資料参照

【課題と次年度に向けての改善策】

(課題)

① 学生管理システムの入力ミス

② 就学奨励費金額誤り

③ 学費請求書の教科書・舎費誤り

(改善策)

① 願書受付のタイミングで願書と学生管理システムの入力情報があるか、事務担当と主任でダブルチェックを行う。

② 今年度から導入した就学奨励費システムを有効活用し、又きずな高校事務局との送金金額チェックを行うことでミスを防ぐ。

③ 請求書印刷前に使用する教科書一覧（学年別）とのチェックを行う。舎費は1年生、2・3年生で異なる為、マスタ確認時にチェックする。

舎務部（会津）

・活動方針、活動目標、達成率 ※資料参照

【課題と次年度に向けての改善策】

（課題）

- ① できない事や理解ができていないことの把握が遅れた生徒がおり、支援が遅くなったケースがあった。アセスメントを全員で確認しながら適切な支援方法が検討することはできなかった。
- ② 次年度は部活動が無くなるため、余暇活動の幅が広げられるよう、曜日ごとに内容を決め、様々な体験ができるように計画を立てる。

（改善策）

- ① 週ごとなど行動観察をする生徒を決め、ケース担当だけではなく職員全員でできていることできていないことを早期に理解する。全員の支援方法の確認ではなく、ケース検討のように生徒を絞り支援状況を全員で確認する。
- ② 外部の機関や施設の協力を仰ぎ、卒業後の生活の幅が広げられる取り組みを考えていく。

広報部（会津）

・活動方針、活動目標、達成率 ※資料参照

【課題と次年度に向けての改善策】

（課題）

- ① 専攻科の定員未達成。今年度は本科からの内部進学がなかった。
- ② 各中学校、支援学校、高等学校の教員から生徒へ案内をしてもらえるように、訪問や教員向け説明会を実施したが、特に高等学校の先生へ専攻科を理解していただくことが難しかった。

（改善策）

- ① 本科入学時より専攻科への進学の意識がもてるよう広報を実施。
- ② DM だけではなく、YouTube のリンクを DM に貼るなど、理解いただけるようなツールの見直しを行う。

#### 4 学校評価について（久田）

・分析、考察 ※資料参照

【改善策】

- 1) 生徒：①「卒業後の進路説明」「いじめの早期発見」  
②「図書室利用」
- 2) 保護者：①「学校の方針や様々な取組に関する情報公開」  
②「いじめの早期発見に対する取り組み方針の共有」

- 3) 教職員：①教務 / 更なる効率化した仕事の進め方、体制整備  
更なる指導スキルの向上  
②地域支援 / 教職員への研修・研究体制の強化

5 いじめアンケートについて (下村)

- ・対象生徒聞き取り内容、考察、改善策 ※資料参照

6 進路指導について (中野)

- ・令和5年度一般就労進路決定状況、福祉サービス進路決定状況、進路決定状況まとめ、考察 ※資料参照

【令和6年度に向けて】

3年間の取り組み実績を基に1年生から計画的に進路指導ができるよう、各学年の目的・目標・課題が統一して可視化できる進路マニュアルを改訂します。また、進路冊子には本科生またはその保護者が専攻科の特徴を理解でき、視野を広げたコース選択・進路活動ができるページを盛り込みます。

7 質疑

8 指導助言

- ・3年目になり状況が変わっている中で、生徒個々合わせた進路選択となっている。次年度はさらに選択肢が広がるため、より生徒個々に合った進路指導にしていきたい。  
(水谷様)
- ・防災についての取り組みについて。(水谷様)
- ・生徒へ震災への意識付けを今後さらに考え、防災(震災)への意識を高めていただきたい。
- ・月一回の安全点検をサービスコースの生徒に実施させている。生徒が実際に自分たちの目で確認し、職員へ報告させる取り組みを意図的に学習の中に取り入れている。  
(櫻村)
- ・生徒が報告を行うといった意味でもとても良い取り組みである。(水谷様)
- ・移行支援会議の具体的な内容について具体的な中身を教えて欲しい。(岩田様)  
就職先の担当者様、本人、保護者、教員、関係機関で行う会議。企業先、本人の不安を取り除くことを目的とし、就職後の動きを確認する。内定後一回実施を標準としている。  
(中野)  
今後さらに移行支援会議を充実したものにしていただきたい。(岩田様)
- ・消防訓練の内容について。(水谷様)
- ・AEDの物品の場所等は生徒へも周知しているが、実際の消防訓練は行っていないため今後実践を検討していきたい。(栗原)
- ・AED等、実際に物を使えない生徒もいるため、ぜひ実践していただきたい。(水谷様)

- ・進路指導について（菊地様）
- ・身体的な強化。就職を意識させ、自身の健康管理や身体強化が就職後も非常に大切であることを生徒へ伝えながら指導していただきたい。災害が発生した時にも身体的強化（自分で動ける力）が活かされることを伝えていただきたい。
- ・資料 P.7 ワークライフブレンドについて（井上様）  
部活動や課外活動を通じ、学業以外に生徒様ご自身で好きなことを見つけて、主体的に目標達成に向けて取り組むことは御校の教育目標の柱の一つで『極める』との親和性が非常に高く、良い取り組みだと思えます。また、そこでの成功や失敗といった経験が社会に出てからの自信であり糧へと繋がるものと考えます。次年度より地域移行されるということですので、ますます外部の方々との接点機会が増えると思えます。達成目標の共有、外部の方々とのコミュニケーションや協業は、社会との共生を疑似体験する事にも繋がります。社会に出た後のコミュニケーション能力向上や周りからのサポートを得て最後までやり遂げる力に大きく寄与されるものと期待しています。
- ・資料 P.12 インターンシップおよび資料 P.19 芸美コースのサロンでのアルバイトについて（井上様）
- ・昨年 12 月に行われました弊社（株）ガモウ主催の就職ガイダンスへ中野先生にご参加頂き、各美容企業様との『接点づくり』のお手伝いをさせて頂きました。美容企業様でのアルバイトやインターンシップの経験を通して、就職後に必要とされる美容技術や接客スキルのイメージづくりを行って頂きます。企業様からは【生徒様ご自身でできる事】、【まわりのどなたかのサポートがあればできること】、【難易度的に難しい事】などの指標に基づきフィードバックを受けることで、生徒様個々のスキルに応じた学校内での教育サポートが可能となります。また入社後や社会に出た際のリアリティショックや技術面での躓きを抑止することにも繋がると考えられ、非常に有効な活動だと思えます。

## 9 副校長挨拶（藤原）

- ・一年間を振り返り、コロナウィルスが5月より5類移行となり、マスクを取り自然な生活、様々な行事を実施することができ、開校初の修学旅行も実施することができた。
- ・完成年度にはなるが、まだ定員を満たしていない。まだまだ反省や課題がある。皆様のご助言が学校運営の財産になる。
- ・学園が運営する通信制高校も今年から学校関係者評価委員会が始まった。学区内の皆様からご助言をいただくことで学園としてもより良い学校運営につながる。
- ・常に新しいものを目指していく学園である。仙台みらい高等学園を輝かせていくため、評議員の皆様には次のステップへの引き出しをたくさん導いていただきました。今後ともご指導をお願いいたします。（檜村）